

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970600167
法人名	医療法人 桃潤会
事業所名	グループホームみたま
所在地	〒 409-3612 山梨県西八代郡市川三郷町上野2968番地 電話番号 055-272-8110

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年4月22日

## 【情報提供票より】 平成20年3月 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成12年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	9人	常勤	4人 非常勤 5人 常勤換算 9人

## (2) 建物概要

建物構造	耐火 造り
	2 階建ての 0 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	59,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 100,000 ) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1333 円			

## (4) 利用者の概要 平成20年3月10日 現在

利用者人数	11 名	男性	3 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 0 歳	最低	52 歳	最高	91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	市川三郷町立病院、市川三郷町営国民診療所、内藤歯科医院、米波内科医院
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年3月28日

自然環境に恵まれた高台にあるグループホームである。敷地内に併設の介護老人保健施設と在宅福祉施設がある。管理者は、グループホームとしての機能を十分活かすため、利用者が共同生活によって自分らしく生活できること、利用者にとって心安らぐ支援が出来る職員の確保に努めることを重視している。全職員は明るく穏やかな支援をしている。不安定な状態の利用者に対してもそのペースに合わせ、穏やかな態度で接していた。二つのユニットが廊下でつながっており、各利用者は自由に行き来し明るい表情で生活している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善項目を書き出し、改善点を検討した結果ホームの理念をスタッフカードの裏に書き、朝の申し送り時に読み上げる。利用者が個々の小遣い帳を記入のうえ、レシートを貼付したことなどが改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の主な項目は、管理者とホーム長が記入し項目によって職員に確認を行った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 現在、運営推進会議の設立はされていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの受付に意見箱の設置はあるが、今まで家族からの意見、苦情はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や地区の老人クラブへの入会はないが、地域のお祭り・幼稚園の運動会・地区の防災訓練などに参加している。また幼稚園児の訪問や小学生のボランティアの訪問もある。今後ホームで参加できることがあれば参加したいと考えている。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホームみたま

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフルームの壁の数箇所に見やすい文字でホーム独自の理念が掲示してあるが、地域密着型のホームとしての理念が掲げられていない。	○	今の理念に地域のホームとしての理念を付け加えられたい。また理念を分かり易い形でリビングに掲示していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフカードの裏に書き入れ、毎日の申し送り時に確認することで、全職員が理念を共有し利用者の意思の尊重と声かけの支援に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入はしていないが、地区の防災訓練やお祭り、幼稚園の運動会に参加している。また幼稚園児が絵や手紙のプレゼントを持って来訪したり、小学生がボランティア授業として来訪している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、主に管理者とリーダーで取り組み、項目により職員に意見を求めた。外部評価の結果について要改善点をリストアップし全職員で検討し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月にケアマネージャーが急に退職したことで、管理者が運営推進会議の意義が分からないことを理由にまだ実施していない。	○	運営推進会議は、話し合いを通じて会議メンバーからの意見をサービス向上に活かしていくため大変重要なものです。早急に実施することを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今後、運営推進会議を実施し、行政との連携を考えているが、現在は行政との関係づくりには取り組んでいない。	○	地域密着型のグループホームとして、行政との連携は大切です。早急に行政との関係づくりをはかり、情報の交換を行ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月事業所から送付される請求書の中に「ホーム便り」を同封しているが、利用者一人ひとりの報告はされていない。家族来訪時に利用者の様子を報告し、こづかい帳とレシートを提示している。	○	各利用者ごとに担当職員が決まっているので、職員が担当利用者の様子を伝える「お便り」を添えると更に家族と関係が深くなると思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム窓口に「ご意見箱」が設置されている。苦情申し立てについては、運営規定に明示してあるが家族から意見や苦情は、ない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動があったが、人数の把握が出来ていない。また職員の異動については利用者や家族に報告されていない。2月にケアマネージャーが退職し、現在ケアマネージャーが不在であるが、5月に就任予定である。	○	利用者や家族の不安や混乱を避けるため、職員の異動については、事前に報告をするようにしていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、併設事業所で設置されている各種委員会に所属し勉強会に参加しているが、グループホームの研修会へ参加する機会はない。	○	全職員がスキルアップのためにグループホームに関する勉強会や外部研修に参加するよう配慮をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修で他のグループホームへ行ったり、他のグループホームからの受け入れは行っているが、地域に関係施設がなく交流やネットワークづくりは困難である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護サービスの申し込みの時点でグループホームや他の併設施設のサービス利用を検討し、グループホームへ入居希望すると、ケアマネージャー、ナース、事業所の相談員と自宅や入院先を訪問し、利用者の情報を得るとともに馴染みの関係作りをしている。またホームの見学にも来ていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事でできることを見つけ、利用者に「お願いします」「有難う」と声かけをし、一緒に家事を行っている。職員が利用者から昔の習慣や料理、お菓子作りを教わることも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントを基に本人や家族の意向を把握し、支援に活かしている。また利用者の思い込んでいる現実を否定しない支援や希望によって毎週、帰宅外泊の支援も行っている。今後、正月やお盆の帰宅支援も考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月一回カンファレンスを行い介護計画の課題に従い、モニタリングを行い、全職員が担当利用者の課題や要望について話し合っている。カンファレンスに出席できない職員は、前もって担当利用者の課題について伝えておくようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期は一年、短期は三ヶ月の介護計画の目標を設定し、見直しを行っている。利用者に状況の変化があったときや病院から退院したときは、随時カンファレンスを開き見直しを行っている。介護計画時や見直し時に家族の理解を得た署名捺印がない。	○	介護計画を立てたり、見直しを行った時点で家族に説明をし了解のサインと捺印を得ていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所やショートステイは併設施設で行っているのですが、グループホームでの支援は行っていませんが、かかりつけ医受診に家族対応が出来ないときや車イスで受診の場合は、ホームで対応している。毎週外泊帰宅を希望する方の送迎も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診は、原則家族対応で行っているが、利用者が車イス使用の場合や家族が来られない場合は、ホームで支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、併設の老健または病院に移ってもらう方針であり、ホームでの終末ケアは考えていない。原則として利用者が車イス使用になった場合は他施設に移ってもらうことを入居時に口頭で伝えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや支援の様子は一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮がされている。個人情報の取り扱いにも注意がはらわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなホームの日程により、一日の生活の流れが決めているが、利用者のペースに合わせ食事や後片付け、家事手伝いなどがゆったりと穏やかな支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	火曜日、金曜日の昼食と夕食はホームで調理し、それ以外は併設施設で調理されている。職員も同じテーブルで会話をしながら食事をしている。この日は廊下を隔てた別ユニットの利用者が同じ場所ですべて食事をしていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後1時30分から5時30分の間にユニットごとに隔日に入浴をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることや興味にあわせ、食事の後片付け、洗濯物干し、畑仕事の他習字・塗り絵・貼り絵などに取り組んでいる。また昔の歌謡曲のテープを聞いて楽しんでいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回から2回の外食、ドライブでの行楽の他、日常的に近くの公園や地域へ散歩をしている。また週2回食材の買い物に希望者が同行している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームがエレベーターで上った2階にあり、利用者がエレベーターを使用するのが危険という点と職員の目が届かないという理由でホーム入口の扉に鍵がかけてある。居室の施錠はない。	○	利用者の安全を確保しながら、職員の注意と工夫で鍵をかけない方法を検討していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練には参加している。年1回消防署立会いで訓練を行い、緊急マニュアル連絡網も整備されているが、夜間の避難訓練、救急救命の訓練は行われていない。	○	地域に協力を得たうえで合同で夜間の避難訓練を実施することにも取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取、栄養バランスは併設施設の栄養士によりチェックをしてもらっている。水分摂取は食事やおやつの時・入浴後、職員が確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、どこも広々と明るい。ユニットごとに和風と洋風の趣の工夫があり和風のユニットは畳の部分に掘りごたつが設けてある。ベランダには季節の鉢植えがある。洋風ユニットでは「カナリア」を飼っている。	○	ホームが併設施設の2階にあり、ホームの入口が分かりづらい。1階入口にグループホームの案内板を設置されるなど工夫をしてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風ユニット、洋風ユニットの居室にはテレビ、衣装ケースなど各々家庭より持ち込まれたものが置かれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		